



学びのエリア7年生：130名 8年生：142名 9年生：121名 計393名

板橋区小中一貫教育「板一中小中一貫学びのエリア」（板二小・板六小・板七小・板一中）

## 全国学力学習状況調査をよみとく

校長 伊藤 聡

4月に9年生が行った国語・数学・英語の全国学力学習状況調査（以下、学調）についてよみといていきます。国語や数学は、冊子になっている問題用紙テストが行われましたが、このような筆記調査は今年度が最後になり、来年度の学調はCBT（コンピュータでの調査のこと）で行われます。今回の英語の調査は、先行してCBTで実施されました。そのため、調査内容によって実施日が異なります。また、内容もイヤホンをつけて行う「聞くこと」、キーボードで入力したりする「読むこと・書くこと」、そしてマイクに向かって「話すこと」と、紙と鉛筆では行えなかった内容となりました。本号では、板一中の速報値を基に、問題の一部をよみといていきます。正式な結果は7月以降になります。

学調の概要を押さえておきます。対象は9年生。出題は、8年生までに学習した内容の中から、①身に付けておかないと今後の学習に影響を及ぼす内容、②知識・技能を実生活に活用する力等に関する内容です。また、問題の形式も選択式・記述式だけではなく、口述式も取り入れた内容となっていました。

「国語」では生徒が作成した随筆の文章についての問題がありました。文章に書き加える一文をパソコンで作成するとき用いる「多数決をとる」の下線部の漢字変換が取り上げられ、適切な漢字を記述で答えるという問題です。スマホの普及とともに、漢字の変換は自分の頭ではなく、機械に任せている状況下で正しい漢字を書けるのか。結果は、7割の生徒が誤答または無解答でした。改めて漢字のつくりを考え、記述するとき正しい言葉を使っているかを意識することが大切になるでしょう。

「数学」では前半に基礎学力を測定する問題が設定され、最後の問題では4ページにわたる統計に関わる内容が出題されました。累積度数、箱ひげ図と四分位数の対応についてという基本的な知識を確認する問題とともに、2つの度数分布の形状や位置を比較して、要因とともに傾向を説明するという問題でした。数学の記述式の問題になると無解答率が一気に高まり、3割から4割が無解答でした。何を解答することが求められているのかを整理する力とともに、課題を解決するための構想を立て、評価・改善する力を付けていくことが大切になります。

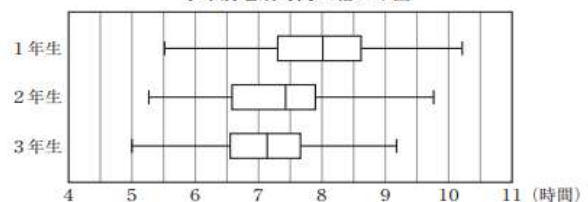
「石井さんが書き加える一文」

何をして遊ぶか多数決をとる子どもたち、倒い主が投げ上げたボールを落とさずにとる犬、遠くの美しい山並みをとる人。

【文書作成ソフトに表示された意味と用例】

- 取る
  - 必要な物を入れて、集める。【きのこを**取る**】
  - 持つ。握る。得る。除く。【手に**取って**見る】
  - 【免許を**取る**】
- 捕る
  - つかまえる。【魚を**捕る**】
  - 【外野フライを**捕る**】
- 撮る
  - カメラなどで写す。【写真を**撮る**】
  - 【記録映画を**撮る**】

学年別睡眠時間の箱ひげ図



全校生徒の睡眠時間の度数分布表

階級(時間)	度数(人)	累積度数(人)
以上 未満		
4 ~ 5	1	<input type="text"/>
5 ~ 6	14	<input type="text"/>
6 ~ 7	75	<input type="text" value="ア"/>
7 ~ 8	126	<input type="text"/>
8 ~ 9	62	<input type="text"/>
9 ~ 10	20	<input type="text"/>
10 ~ 11	2	<input type="text"/>
合計	300	

また、前半に設定されている反比例に関する問題では5割の誤答があり、0や-3と答えている人が多かったです。大切なのはどのような間違いだったのか、なぜそう考えたのかを振り返ることです。この問題は、これまでの学調での正答率が低いため、不定期に出題される問題の1つです。9年生の今後の学習に影響がありますので、復習し、理解しておきましょう。

最後に CBT で実施された英語の問題を取り上げます。「聞くこと」の問題では、これまでのリスニングと違い、自分のタイミングで何度も聞くことができます。再生すると日本語の指示が流れ、問題に関する英語が再生され、内容に関わる画面が提示されます。例えば、右の問題は職場体験について①から③まで説明があり、次の画面では説明の順に示された画像を選択するという形式でした。

「書くこと」では、英単語を答えるような問題はありません。単文や一定のまとまりの英語をタブレットから入力することが求められていました。その際に、自分の考え、感想、理由などを英作文する力が求められています。

そして、「話すこと」では、Esat-J Year 2で体験した内容に近い出題でした。質問に対して考える時間が設定されており、その後、限られた時間で自分の考えた英語をマイクに向かって話し、記録していきます。やはり、ここでも単語を回答するという内容ではなく、自分自身の考えを英語で回答することが求められていました。日頃の授業でのやり取りの成果が試される内容でした。

4 下の表は、 $y$  が  $x$  に反比例する関係を表したものです。□ に当てはまる数を求めなさい。

$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	...
$y$	...	□	-6	-12	×	12	6	...



あなたは、中学生になってからの思い出(My Memory)を【英語新聞】にまとめることになりました。思い出を1つ取り上げ、「そこであなたが体験したこと」と「感想」を、18語以上36語以内の英語で書きなさい。なお、思い出は下の【例】を参考にしてもかまいません。

【英語新聞】

## My Memory

📷

※ここには、あなたの思い出の写真が入ります。

【例】

- 学校行事
  - 文化祭(the school festival)
  - 体育祭(the sports festival)
  - 音楽祭(the music festival)
  - 修学旅行(the school trip)
  - 職場体験(the work experience)
- 授業
- 面白い事
- 趣味
- 日常の出来事
- その他

<解答欄> ※半角で入力してください

0 / 最大999 単語